

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2026



所 属：心理臨床学科

名 前：岩永 靖

ティーチングポートフォリオの作成・更新手順

ティーチングポートフォリオ（TP）は、教育活動の成果や実践を記録し、教育活動を公表するとともに、振り返りや改善に役立てるための重要なツールです。以下に、ティーチングポートフォリオを新規に作成する、または更新する方法を示します。

作成日：2026年6月9日

教員氏名：岩永 靖

所属：人文学部 心理臨床学科

1. はじめに

本学では、従来より学生による授業評価アンケートを実施し、今後の授業改善に取り組んできた。また、教員自らがシラバスや学生からの授業評価に加えて、教育に対する取り組みや成果など教育活動全般について網羅的にまとめるためにティーチングポートフォリオを作成してきた。ここでは、私の2023年度から2025年度までの教育活動全般についてティーチングポートフォリオとしてまとめ、今後の教育活動に活かしていくこととする。

2. 教育の責任

本学における私の教育責任は、主に心理臨床学科精神保健福祉コースにおける専門科目の担当である。2008年度入職時より精神保健福祉コース長として精神保健福祉コースの教育、また2016年度よりスクールソーシャルワーク教育課程を立ち上げ、現在精神保健福祉コース長として精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカーの養成教育に携わっている。

(1) 授業科目の担当

■ 主要授業科目

2023年度～2025年度の3年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
心理臨床学の展開	2023-2025 後期	平均 54 名	心理臨床学科専門必修
特別研究	2023-2025 後期	平均 7 名	心理臨床学科専門必修
卒業研究	2023-2025 前後期	平均 8 名	心理臨床学科専門必修
学校ソーシャルワーク論	2023 後期	8 名	心理臨床学科専門選択
学校ソーシャルワーク演習	2023-2025 後期	平均 5 名	心理臨床学科専門選択
学校ソーシャルワーク実習指導	2023-2025 後期	平均 5 名	心理臨床学科専門選択
学校ソーシャルワーク実習	2023-2025 後期	平均 5 名	心理臨床学科専門選択
精神保健福祉現場体験	2023-2025 前期	平均 16 名	心理臨床学科専門選択

ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	2023-2024 後期	平均 11 名	心理臨床学科専門選択
精神保健福祉援助演習Ⅱ	2023 前期	16 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2024-2025 前期	平均 10 名	心理臨床学科専門選択
精神保健福祉援助演習Ⅲ	2023 後期	16 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	2024-2025 後期	平均 10 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2023-2025 後期	平均 13 名	心理臨床学科専門選択
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2023 前期	16 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2024-2025 前期	平均 10 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2024-2025 後期	平均 10 名	心理臨床学科専門選択
精神保健福祉援助実習	2023 前期	19 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク実習	2024-2025 前期	平均 10 名	心理臨床学科専門選択
障害者福祉	2023-2025 後期	平均 54 名	心理臨床学科専門選択
刑事司法と福祉	2023-2025 後期	平均 49 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2023 後期	17 名	心理臨床学科専門選択
精神障害リハビリテーション論	2024 前期	33 名	心理臨床学科専門選択
チーム学校協働演習	2025 後期	30 名	心理臨床学科専門選択
多職種連携の実際	2023 後期、2025 後期	平均 10 名	人文学研究科必須

「障害者福祉」

本学入職時より長く担当しており、精神保健福祉士養成指定科目であるが、精神保健福祉コースの学生のみならず心理学コース、人間科学コースの学生も学んでいる。障害者福祉の歴史から学ぶことに重点を置きながら現在の障害者福祉の施策、法制度とその課題を学ぶことを重視している。

「学校ソーシャルワーク実習指導」

学校ソーシャルワーク実習を行う上での準備を行う科目である。ソーシャルワーク実習でかかわった事例を、スクールソーシャルワーカーの立場で検討するなど、ソーシャルワーク実習とのつながりを活かし、学校ソーシャルワーク実習に取り組めるよう意識している。また実習後は、プロセスレコードを活用したグループスーパービジョンを実施し、対話を中心

としながら実習での学びを深める取り組みを行っている。

「チーム学校協働演習」

2025 年度から開講した科目である。公認心理師養成担当教員と共に担当し、教職、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）をめざす学生が共に学ぶことにより、チーム学校で協働する専門職としての他職種への理解を深め、教育、福祉、心理の各自の課程での学びによる学生間の違いとかさなりを意識化することを目的としている。

具体的には、それぞれの役割やチーム学校の実際について理解するとともに、様々な課題に関する事例検討や模擬校内ケース会議を実施している。

■ 非常勤講師

なし

■ 出張講義

2023 年 8 月 23 日と 30 日、熊本県立熊本西高等学校アカデミックインターンシップとして、1 年生を対象に「学校ソーシャルワークとは？」と題し、子どもの貧困や児童虐待の問題と学校ソーシャルワーク実践について講義を行った。

2023 年 9 月 14 日、くまもと中央学院模擬授業として「学校ソーシャルワークとは？」と題し、子どもの貧困や児童虐待の問題と学校ソーシャルワーク実践について講義を行った。

2024 年 6 月 9 日、進学ガイダンスセミナーとして、「学校ソーシャルワークとは？～様々な課題を抱えている子どもたちへの支援～」と題し、子どもの貧困や児童虐待の問題と学校ソーシャルワーク実践について事例を交えた講義を行った。

2024 年 9 月 11 日、熊本県立熊本西高等学校アカデミックインターンシップとして、1 年生を対象に「学校ソーシャルワークとは？」と題し、子どもの貧困や児童虐待の問題と学校ソーシャルワーク実践について講義を行った。

(2) 教育組織運営

2024 年度より再度精神保健福祉コース長として精神保健福祉コースの教育課程編成及び実施に携わっている。具体的には精神保健福祉士カリキュラムやスクールソーシャルワーク教育課程認定履修申請、実習先の開拓などを行っており、また学生のコース選択や就職活動の相談にも対応している。

3. 教育の理念

開学以来本学では少人数教育と様々な体験学修を通して身に付けた幅広い視野や知識を、卒業後に社会の様々な場面で活かせるような教育を目指してきた。私が所属する精神保健福祉コースは、様々な生きづらさを抱えた人への支援について学んでいく。「感恩奉仕」の精神に基づき、ソーシャルワークの基盤である価値・知識・技術について実践できる人材を教育していくことが私の教育理念である。

(1) **理念1** 科目内容を実践に結びつける力を身につける。

私の担当する科目は、精神障害者や児童生徒の様々な課題やその改善に向けた支援について学ぶ科目である。それゆえに単なる知識の修得だけでなく、それを実践に結びつけ、卒業後に現場で活かしていくことが重要である。そのために多くの事例を活用したり、私自身の現場での経験を授業の中に盛り込み、より具体的に現場のイメージがつくようにすることや実際の様々な知識や技術が現場実践においてどのように活用されているのかを深める教育をしたいと考えている。

(2) **理念2** 障害者や児童生徒を取り巻く社会問題について考える力を身につける。

私の専門領域であるソーシャルワークは、ミクロ、メゾ、マクロ領域で実践を展開するのが特徴である。障害者や児童生徒が抱える課題は様々なマクロレベルの社会のありようが大きく影響している。シラバスに基づいて授業を展開するとともにその時々社会のありようを考える題材を提供し、マクロレベルからの精神保健福祉、学校ソーシャルワークを考える教育を行っていきたいと考えている。

(3) **理念3** 他者と協働し学び合う力を身につける。

私が担当している実習関連科目においては、学生がそれぞれの現場で様々な体験をし、多くの気づきと学びを深めてくる。その体験をお互いに共有すること、そしてそこから互いに学び合うことを通して、他者と協働し学び合う力を身につける教育を行いたいと考えている。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

(1) 現場での体験並びに資料の活用

授業内容に合わせて私自身が現場で経験してきたことやその状況、また現場で活用されている資料を提示することにより授業内容の理解と現場のイメージがつくような工夫を行っている。

(2) 社会問題に対するソーシャルアクション

精神保健福祉並びに学校ソーシャルワークに関連する課題に対して、公益社団法人日本精神保健福祉士協会を始め様々な団体が声明や提言を行っている、そのようなソーシャルアクションの取り組みを紹介することにより、社会における様々な課題に対して精神保健福祉士としてできることを考える機会としている。

(3) 実習における学び合いの機会の提供

実習後の事後学修において、自らが実習体験を言葉にして語ること、またそれに耳を傾けそこから学ぶことを意識した機会を設けている。より多くの時間をとり共感できる体験や他者から学ぶ体験をすることにより卒業後の現場で活かせるよう工夫している。

5. 教育改善のための努力

(1)改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

各学期に実施される授業評価アンケートの数値並びに自由記述のコメントのうち改善すべき点については、授業の最初に前回の振り返りのディスカッションを取り入れる等、課題改善に取り組んでいる。

(2)改善努力2 職能団体や学会及び社会貢献活動の中から情報収集

私自身が所属している職能団体や学会での活動並びに社会貢献活動の中での経験から授業で活かせるような内容や新しい情報等を収集し、授業の中で活かしてきた。

6. 教育の成果・評価

ソーシャルワーク実習において、事前協議会議、実習報告会・事後協議会を継続して実施し、実習指導者からも本学学生への高い評価をいただき、就職にもつながってきた。

また、授業評価においてもディプロマポリシーの実践において全体評価より高い評価を得ており、必要な実践能力を修得できていることが成果としてあげられる。

7. 今後の教育に関する課題と目標

私の担当科目は、主に実習等を含めた精神保健福祉士養成指定科目とスクールソーシャルワーク教育課程指定科目である。現場での精神保健福祉士やスクールソーシャルワーカーに対するニーズは、様々なメンタルヘルス課題や複雑化した社会課題の増加に伴い高まっており、多くの人材が求められている。

この分野は私が研究フィールドとしてかかわってきた分野でもあり、今後も現場とつながりを持ちながら、そのことを学生の教育に活かし、社会が求めるより良い人材の育成に注力していきたい。

【根拠資料】

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果